

第3章 産業廃棄物発生量等の比較と将来の見込み

第1節 前回調査との比較

1. 発生・排出状況の比較

排出量を前回調査（平成25年度）と比較すると、図3-1-1～2に示すとおりである。この5年間で、排出量は6.5%増加している。

種類別に見ると、汚泥の増加の影響が大きい。

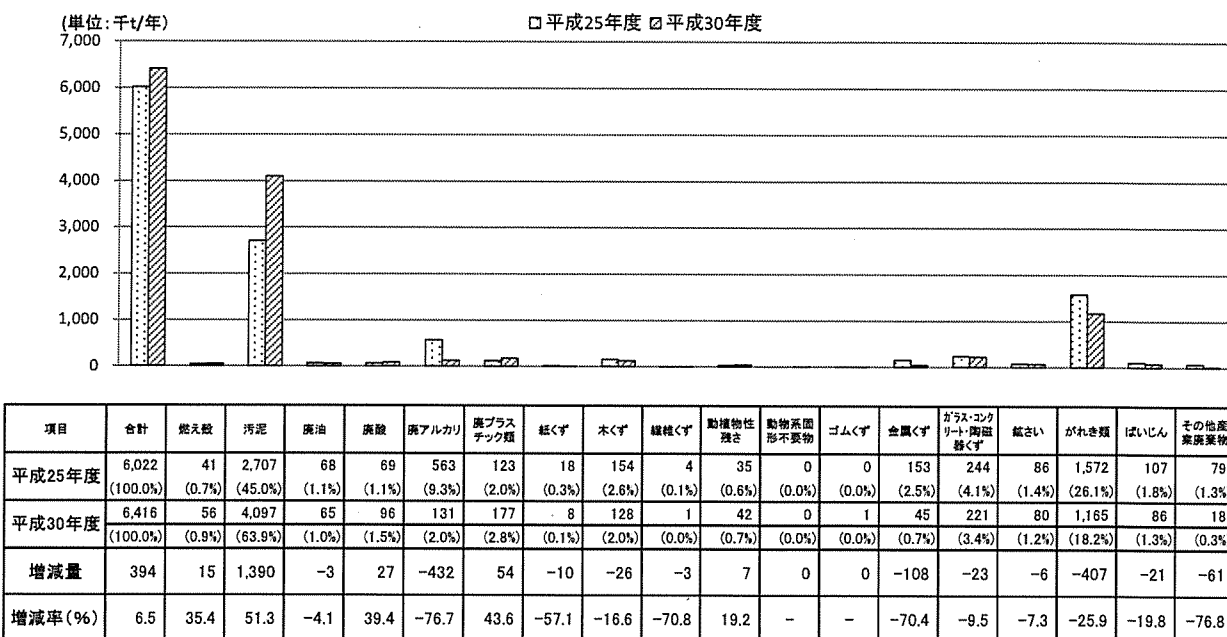


図3-1-1 種類別排出量の比較

業種別に見ると、製造業、電気・水道業の増加の影響が大きい。

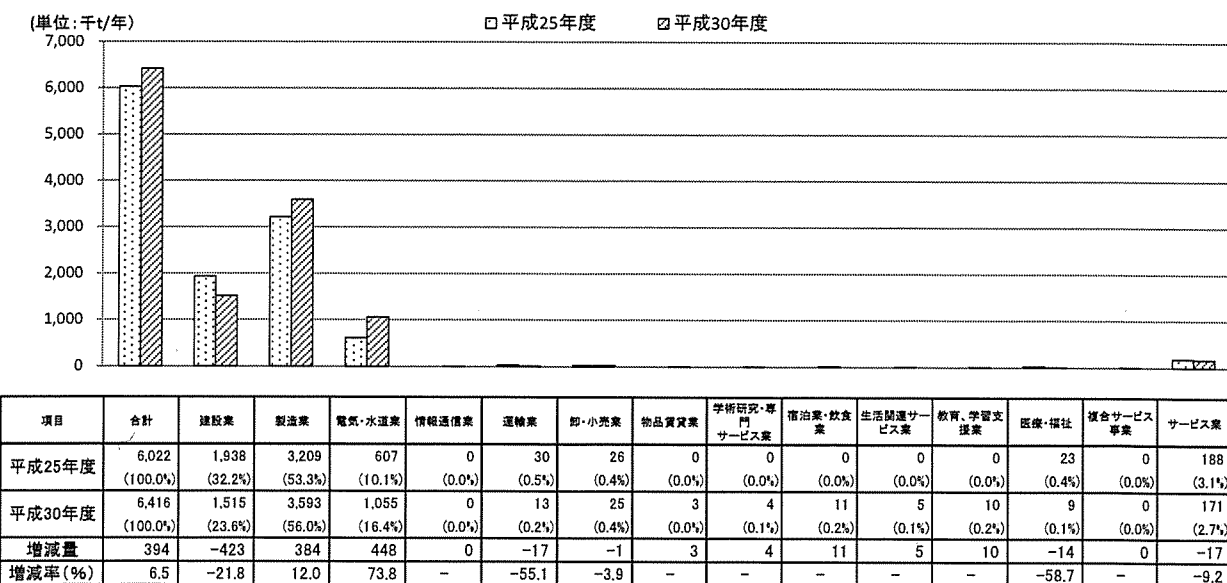


図3-1-2 業種別排出量の比較

2. 再生利用量の比較

再生利用量を前回調査（平成25年度）と比較すると、図3-1-3に示すとおりである。この5年間で、再生利用量は183千トン、7.6%減少している。また、再生利用率も平成25年度の40.0%から平成30年度の34.7%と5.3%減少している。

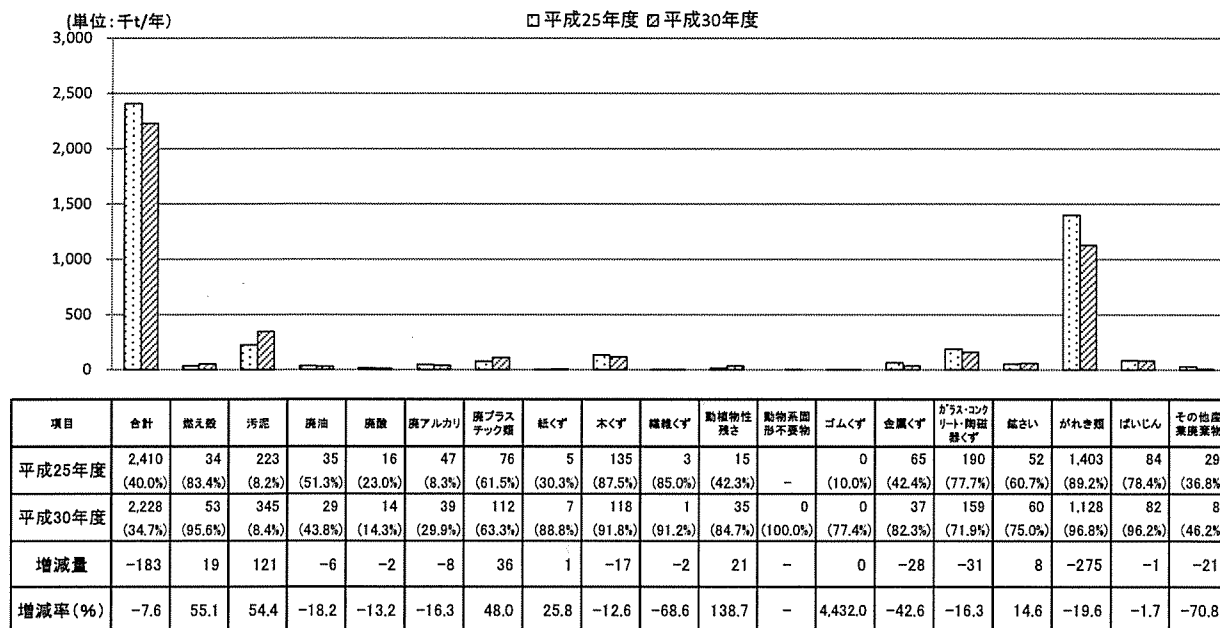


図3-1-3 種類別再生利用量の比較「種類別：無変換」

3. 最終処分量の比較

最終処分量を前回調査（平成25年度）と比較すると、図3-1-4に示すとおりである。この5年間で、最終処分量は30千トン、10.0%増加している。また、最終処分率も平成25年度の5.0%から平成30年度の5.2%と0.2%増加している。

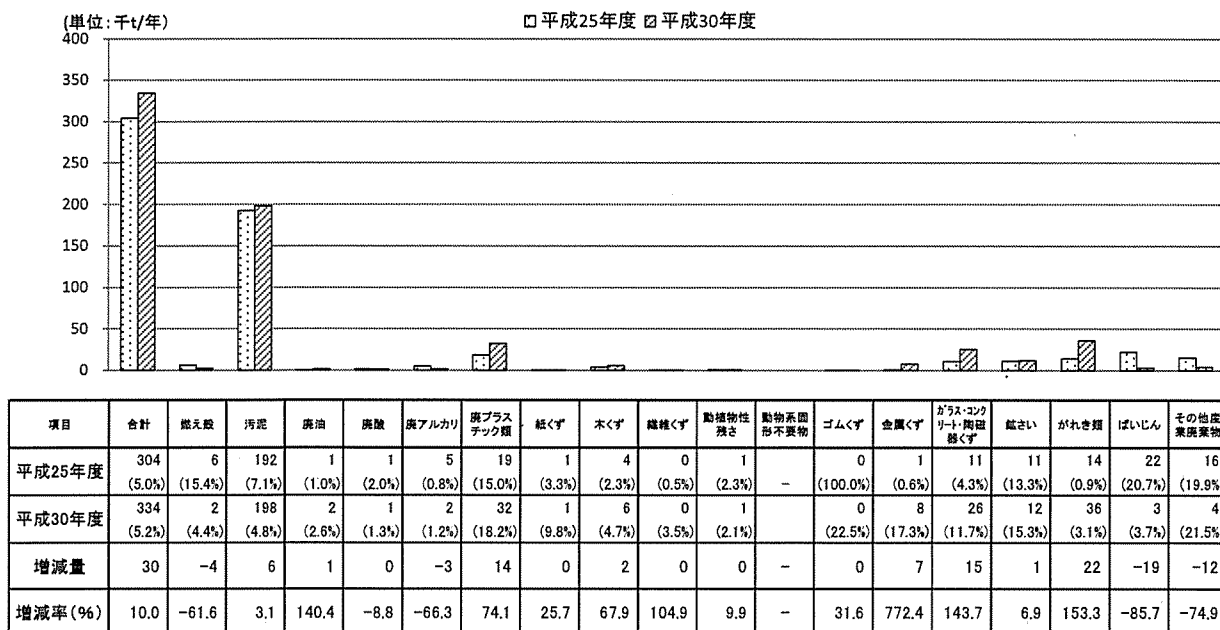


図3-1-4 種類別最終処分量の比較「種類別：無変換」

4. 処理状況の比較

発生量、排出量を前回調査（平成25年度）と比較すると、表3-1-1、図3-1-5に示すとおりである。

表 3-1-1 処理状況の比較

(単位:千t/年)

項目	平成25年度		平成30年度		増減量	増減率(%)
排出量	6,022	(84.6%)	6,416	(100.0%)	394	6.5%
再生利用量	2,411	(33.9%)	2,228	(34.7%)	-183	-7.6%
減量化量	3,306	(46.5%)	3,854	(60.1%)	548	16.6%
最終処分量	304	(4.3%)	334	(5.2%)	30	10.0%
その他量	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	-3.9%

※千トン未満を四捨五入して表示しているため、合計や増減量が単純計算と一致しないものがある。

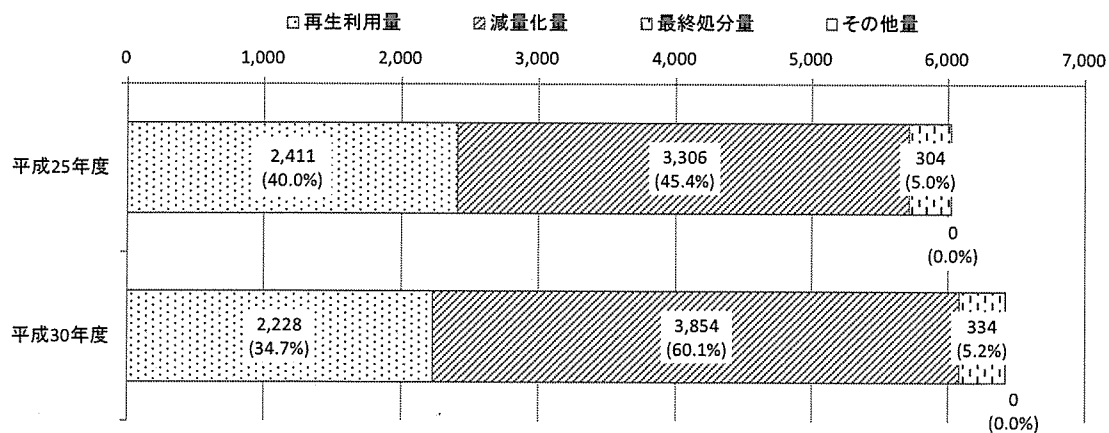


図 3-1-5 処理・処分状況の比較

第2節 将来の見込み

将来予測は、排出原単位及び処理形態が将来にわたり一定であると仮定して、各種経済指標等を将来推計し、推測した経済指標に平成30年の原単位を乗じて排出量等を予測した。

1. 排出量の将来予測

業種別の将来予測方法は表3-2-1のとおりである。

表3-2-1 業種別の将来予測方法

業種	各種経済指標の将来予測方法
建設業	過去5年間の元請完成工事高に基づき（増加傾向）、将来の活動量指標を予測した。
製造業	過去5年間の製造品出荷額に基づき（減少傾向）、将来の活動量指標を予測した。
電気・水道業	国立社会保障・人口問題研究所が推計した将来推計人口に基づき（減少傾向）、将来の活動量指標を予測した。
その他	業種別に過去3ヶ年（平成26年、26年、28年）の従業者数に基づいた回帰式により、将来の活動量指標を予測した（従業者数は経済センサス調査を出典としている。経済センサスは、最近では上記の3ヶ年で調査されている）

その結果、排出量は減少する予測となり、全体で見ると令和7年度が6,237千トン（平成30年度比2.8%減）、令和12年度が6,121千トン（平成30年度比4.6%減）となっている。業種別にみると、製造業と電気・水道業が減少し、建設業は増加している。

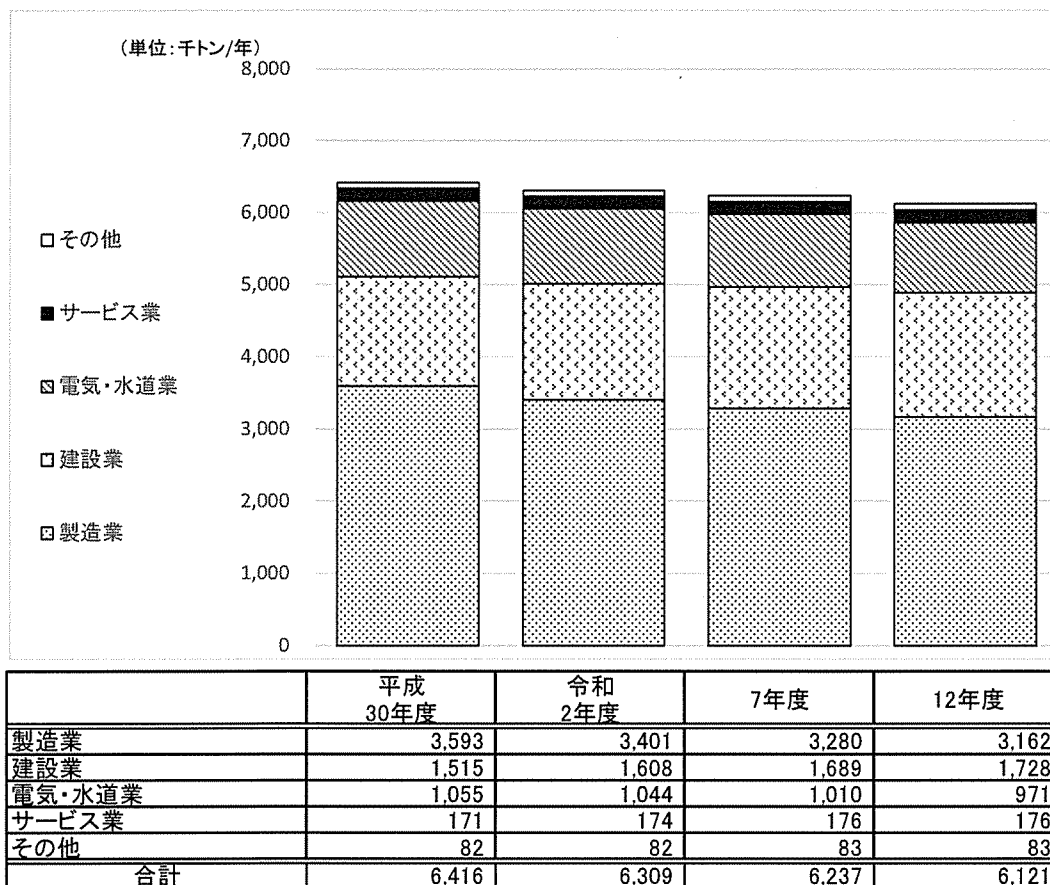
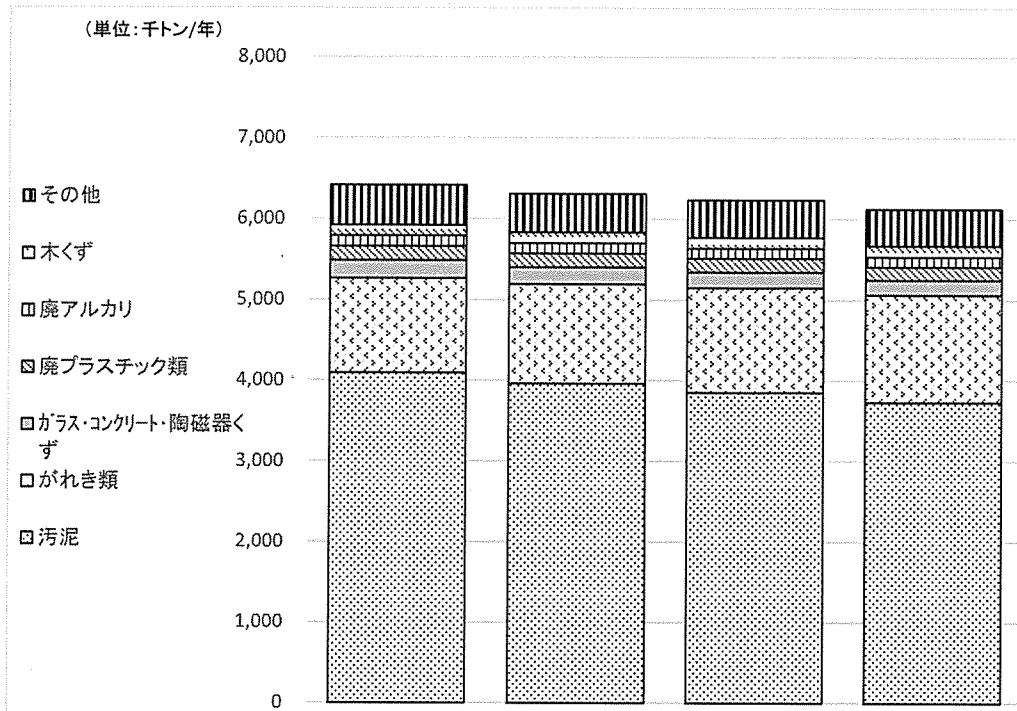


図3-2-1 業種別排出量の将来見込み



	平成30年度	令和2年度	7年度	12年度
汚泥	4,097	3,958	3,852	3,735
がれき類	1,165	1,234	1,294	1,323
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	221	207	196	186
廃プラスチック類	177	173	171	168
廃アルカリ	131	125	122	118
木くず	128	133	138	140
その他	497	478	465	452
合計	6,416	6,309	6,237	6,121

図 3-2-2 種類別排出量の将来見込み

2. 処理量の将来予測

処理量の将来予測は、現状の業種別、種類別の排出量に対する処理方法等の割合が将来も一定であると仮定し、算出した。結果は図 3-2-3 のとおりである。

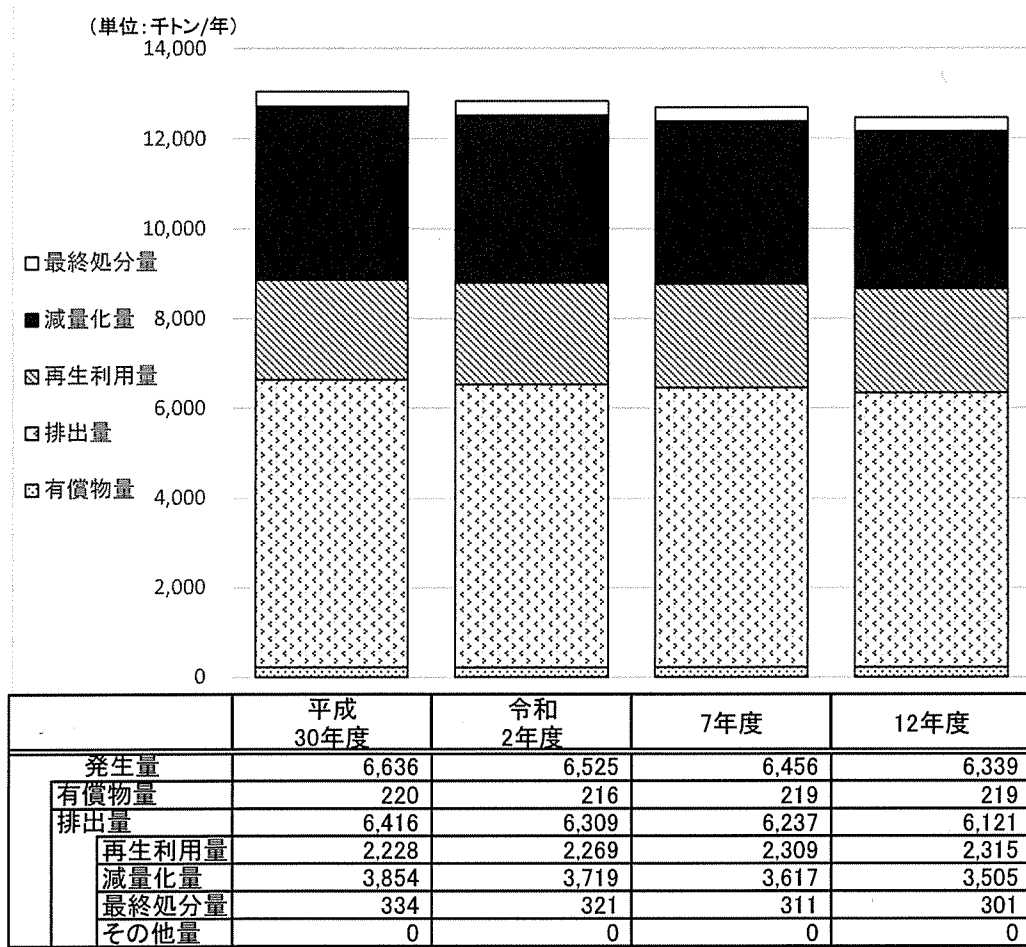


図 3-2-3 処理量の将来見込み